

平成 28 年 2 月 18 日

各 位

会 社 名 株式会社フォーサイド
 代 表 者 名 代表取締役 假屋 勝
 (JASDAQ・コード 2330)
 問 合 せ 取締役管理本部長 飯田 潔
 電 話 0 3 - 6 2 6 2 - 1 0 5 6

**平成27年12月期連結業績予想と実績値の差異及び営業外収益・
 営業外費用・特別利益・特別損失の計上に関するお知らせ**

平成27年12月期（平成27年1月1日～平成27年12月31日）の当社連結業績につきまして、平成27年11月13日に発表した平成27年12月期通期連結業績予想値と実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせ致します。

また、平成27年12月期連結会計年度において営業外収益・営業外費用・特別利益・特別損失が発生いたしましたので、併せてお知らせ致します。

記

1. 平成27年12月期通期連結業績予想値と実績値との差異（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

	連 結 売 上 高	連 結 営 業 利 益	連 結 経 常 利 益	連 結 当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 934	百万円 △72	百万円 △72	百万円 △89	円 銭 △4.06
実績値 (B)	756	△209	△216	△481	△20.93
(B-A)	△177	△136	△143	△392	
増減率	△19.0%	—	—	—	
(ご参考)平成 26 年 12 月 期 連 結 実 績	483	△710	△691	△783	△35.69

2. 差異発生の理由

当初予想額として、コンテンツ事業の売上高を 599 百万円、フィールドサービス事業及び通信メディア事業の売上高を 334 百万円と見込んでおりましたが、最終的な売上高はコンテンツ事業が 396 百万円、フィールドサービス事業及び通信メディア事業が 336 百万円、その他の事業が 23 百万円となり、連結売上高は 756 百万円となりました。

売上高の減少につきましては、コンテンツ事業における SNS アプリの開発が遅延したことに伴い、当初見込んでいた広告収入が翌期に成立する見込みとなったこと及びその他の事業における投資用不動産の売買収入、ファイナンシャルアドバイザー収入及び金融商品の売買益が平成 27 年 12 月期中に成立しなかったことによります。

利益面の減少につきましては、売上利益の減少に加え、下記の通り、各種引当金や減損損失の金額を見積もり、平成 27 年度中の損失としたことによります。

なお、当社グループは平成28年12月期通期連結業績予想数値を、連結売上高1,415百万円、連結営業利益139百万円と公表しております。

当社グループは、平成27年12月期において、営業損失2億9百万円及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナス3億8百万円の状況にあり、4期連続で営業利益及び営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなったため、JASDAQ市場における上場廃止基準との関係で、上場廃止に係る猶予期間に入る見込みです。上場廃止に係る疑義解消のためには平成28年12月期の営業利益もしくは営業キャッシュ・フローのプラスを確保する必要があります。

3. 営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失の発生（連結）

当社グループは平成27年12月期において下記のとおり、営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失を計上いたしました。

（営業外収益の発生及びその内容）

（単位：百万円）

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1)受取利息	10	3
(2)助成金収入	2	2
(3)貸倒引当金戻入益	3	3
その他	1	0
合計	16	8

(1) 主に社債による調達金利負担軽減を目的とし、役員及び取引先への貸付を一時的に行っていたことにより発生したものであります。

(2) IT技術者派遣を行う株式会社デジタルオが労働局に申請し、獲得したものであります。

(3) 主に株式会社クレディエンスの営業貸付金に対する引当金の戻入であります。

（営業外費用の発生及びその内容）

（単位：百万円）

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1)社債発行費	9	—
(2)社債利息	8	2
その他	5	0
合計	23	2

(1) 当社が平成27年3月に転換社債型新株予約権付社債（資金調達額：600百万円）及び新株予約権（資金調達額：14百万円）を発行したことに伴い、発生したものであります。

(2) 当社が平成27年3月に転換社債型新株予約権付社債（資金調達額：600百万円）を発行したことに伴い、発生したものであります。

(特別利益の発生及びその内容)

(単位：百万円)

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1) 関係会社清算益	9	—
(2) 負ののれん発生益	5	5
合計	14	5

(1) 平成27年4月に当社連結子会社である「丝玛伊布克信息科技(上海)有限公司」の会社清算が終了し、連結の範囲から除外したことにより発生したものであります。

(2) 平成27年11月に株式会社クレディエンスを100%子会社した際に発生したものであります。

(特別損失の発生及びその内容)

(単位：百万円)

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1) 貸倒引当金繰入額	62	62
(2) 減損損失	209	209
その他	3	3
合計	276	275

(1) 返済期限を超過した貸付金及び利息に対して、当社の会計方針に基づき12百万円の引当を行ったものであります。また、協業先の契約不履行による契約額の返還請求額に対して先方の返済能力を勘案し50百万円の引当を行ったものであります。

(2) 一時休止状態になっているサイトのソフトウェア資産の減損額17百万円、債務超過状態にあるフォーサイドエンタテイメント株式会社及び株式会社フォーサイドペイメントゲートウェイの固定資産の減損額37百万円及び株式会社デジタルオの将来的な収益力を加味したのれんの減損額154百万円であります。

4. 営業外収益、営業外費用及び特別損失の発生(個別)

当社は平成27年12月期において下記のとおり、営業外収益、営業外費用及び特別損失を計上いたしました。

(営業外収益の発生及びその内容)

(単位：百万円)

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1) 受取利息	6	2
その他	0	0
合計	7	3

(1) 主に社債による調達金利負担軽減を目的とし、役員及び取引先への貸付を一時的に行っていたことにより発生したものであります。

(営業外費用の発生及びその内容)

(単位：百万円)

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1) 社債発行費	9	—
(2) 社債利息	8	2
その他	4	0
合計	23	2

(1) 当社が平成 27 年 3 月に転換社債型新株予約権付社債（資金調達額：600 百万円）及び新株予約権（資金調達額：14 百万円）を発行したことに伴い、発生したものであります。

(2) 当社が平成 27 年 3 月に転換社債型新株予約権付社債（資金調達額：600 百万円）を発行したことに伴い、発生したものであります。

(特別損失の発生及びその内容)

(単位：百万円)

内訳	金額 (通期)	金額 (第4四半期)
(1) 子会社株式評価損	243	243
(2) 貸倒引当金繰入額	163	163
その他	0	—
合計	407	407

(1) 株式会社デジタルリオについて、簿価に対する業績回復の可能性を検討したうえで、各子会社の純資産価値まで評価損を計上したものであります。

(2) 債務超過状態にある株式会社フォーサイドエンタテイメントへの債権に対して回収可能性を検討したうえで、全額を引当したものであります。

以上